“ほっと”なネットワーク
かんちゃん通信
オーダーメイド号 第17号
2021 年 10 月 15 日発行

コロナ禍のかんちゃんホットルーム（多文化共生・地域交流）より

身近なもので作って♪　遊んだり♫　音を出したり(^^♪

ゲーム（マンカラカラハ）やアフリカの楽器（カリンバ・アサラト）

「作るのがむずかしかったけど、あそぶのはすごくたのしかった。」

子どもたちの“びっくり！”って、とても魅力的で新鮮な気持ちにさせてくれます。7月のワークショップ「手づくりマンカラであそぼう」の様子を紹介します。[ホットルームの活動は、4～5面に掲載]

「初めてマンカラであそびました。紙でも作れることがわかりました。」

たまごパックとおはじきで マンカラ 作ったよ♪

「ゲームを覚え始めると、面白くてはまってしまいます。孫と一緒に参加しました。子どもたちと遊べる機会ができてよかったです。」（地域のお年寄り）

「きょうは、めっちゃおもしろかった。インドネシアのゲームは、いろいろなくにといっしょ。でも、やりかたがちがいました。いろいろおしえてもらいました。」（インドネシアの若者）

「びっくりした！（使うものやあそび方が）国によって ちがうんだ！」

「なつかしい写真」は、参加されたベトナムの方からの提供です。

インドネシアでは「チョンクラック」、ベトナムでは「オーアンクアン」と言うんだよ♩世界には、100以上のルールがあるんだって！
国によっては、地面に書いて遊んだり、石やレンガや貝殻を使ったりしたんだね。（5面に続きます）

2021年秋 かんちゃんの小さな家 スタッフからの 発信［I］

かんちゃんホットルーム，相談ルーム，学習サポート，研修会（子どもの相談・RJ等）

かんちゃんの小さな家は、この秋で開設8年目を迎えました。下記の図は、「かんちゃんの小さな家の活動の概要」を図に表したものです。今回と次回の「スタッフからの発信」は、かんちゃんの小さな家の「初心・原点」「大切にしたいこと」を皆さまと共有する機会として、また、多くの方々とつながっていけることを願って企画しました。ご感想や皆さまの「思い」を聞かせてください。お待ちしています。

サポートは手づくりのオーダーメイドで

～どの子も絶対に花を咲かせる力をもっている～

いわゆる問題児と呼ばれる子との関係から、わたしがしばしば感じるのは、途方もない愛おしさや、つよい希望です。学校や、親や、世間を手こずらせる子どもたちとは、「劣った」存在どころか、フツー？とは「異なった」力を宿した豊かな存在だなぁと感じることが多いのです。

真夏にのびのびと咲くヒマワリと、真冬に凛と咲くツバキがあります。これらは、当然ながら優劣などありません。ただ「違う」のです。灼熱の太陽のなかでツバキは咲けないし、雪がしんしんと降るなかでヒマワリは咲けません。

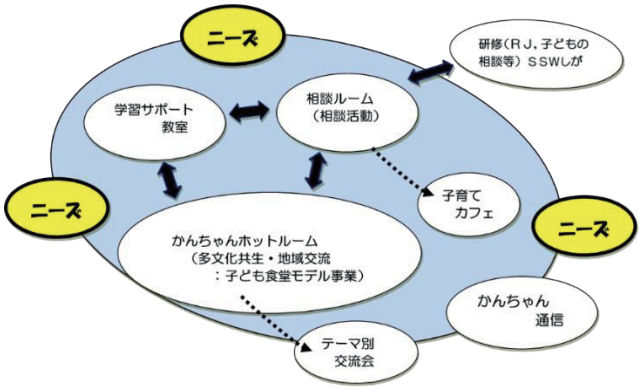
友人である経営者たちのなかには、かつて問題児と呼ばれたひとも少なくありません。時に彼らは、高校に何日行ったか・・・を競って笑っていたりもします（つまり中卒です）。「いまどき、中卒でどうやって生きていくつもりだ！」とうっかり思うのが常識的な反応かもしれません。

しかし現実も、世界も、そんなにちっぽけではありません。キラキラした学校という真夏にはうまく咲けなかった人間が、社会という厳しい寒さの真冬になってたくましく咲き誇ることも珍しくないのです。

「かんちゃんの小さな家」では、子どもの様子に応じて、学習サポートのやり方を工夫します。あるいは、個性あふれる特色ある高校が多数あることを提案することもあります。学校という枠をこえて海外のある場所を提案し、そこに向けて飛び立った子もいました。

【どの子も、絶対に花を咲かせる力を持っている】。この場所では、圧倒的にそれを信じ、一人ひとりにふさわしい環境を懸命に探します。その取り組みを通して、初めて見るようなすてきな花を、子どもたちがイキイキと咲かせはじめてくれる場面に出会うとき、わたしは身体の芯からワクワクする、なんとも言い難い感動や幸せをおぼえます。

［相談スタッフ：まりこさん］



かんちゃんの小さな家
活動の概要図

子ども・若者、そして保護者の方々のニーズをスタッフが受けとめ、支援活動を経て次第に「道」になり、相互のつながりをつくりだしてきた・・と改めて感じています。

『今こそ支えあって』 かんちゃんの小さな家

～コロナ禍でもがんばる地域からの発信～
人権啓発DVD［(公財)滋賀県人権センター制作］

活動にこめる思いが収録！

～子どもたちに居場所と絆を！～

（公財）滋賀県人権センター制作（2021 年）の人権啓発ＤＶＤに、「子どもたちの居場所づくり」（子どもと人権）～スタッフへのインタビューと活動の様子～が紹介されています（約 15 分間）。

滋賀県近江八幡市安土町、安土小学校の南西に「かんちゃんの小さな家」があります。・・・ここで取り組まれている事業やその思いについて、支援者の皆さまの声を通して聞いてみましょう。（「ナレーション」より）

「多文化共生・地域交流活動では、食文化を通して交流しあうことで『違い』（食べ物が違う、作り方が違う、作っている人が違う・・・）に気づきあうことを『種』として、差別や偏見をしない子どもに育ってほしいという気持ちで活動しています。」

［スタッフ（料理長）：ルシアさん］

「ここの活動の魅力のひとつは、いろいろな入口（学習・交流・相談・研修）があることです。ニーズを受けとめられるし、いろいろな悩みをもっている方に届きやすい手段だと思います。また、子どもだけでなく、おとなも自分を出せる場、受けとめてくれる場としてあり続けたいと思っています。」 ［スタッフ：イヴィさん］

この人権啓発 DVD は、「かんちゃんの小さな家」と県内の３つの団体のメッセージが収録されています。問合せ先：かんちゃんの小さな家［TEL.090-3708-3315］・（公財）滋賀県人権センター［TEL.077-522-8243］

「公式」の意味に気づくとき・・・

～ ある日の「かんちゃん塾」（その１）～

数学の方程式の問題を解いていたＡさん。公式を使わずに、どんな問題にも対応できるように、基本の解き方でやっていると・・・式の数が多くなります。

「これは大変」と思い、「公式を使ったら、もっと簡単に解けるんとちがうん！」と気づきました。「そう、公式を使うと便利やで」と言って公式を確認すると、「へえー、簡単に解けるやん。」とつぶやきながら、公式を使って解きだしました。「できた！」と、嬉しそうな声。「公式をしっかり覚えて、基本問題を解くようにしたらいいよ。」と話しかけると、「わかった！」とスッキリした顔に。

それから数日後、「聞いて、聞いて！数学のテスト、何点やったと思う？」と嬉しそうな顔でＡさんがやってきた。「目標達成かな？」と聞くと、「数学の点数、すごく上がったで♪解けそうなところをようく考えて解いたら、目標、軽く超えたわ！その点数を見たとき、びっくりしたわ！」と、とても嬉しそうに話してくれました。

今まで、数学の点数がなかなか伸びず、苦手意識をつのらせ悩んでいたＡさん。でも、粘り強く一緒に勉強していると、「これは大変やん。おかしいやん。」と気がつきました。そこから自分で簡単に解ける方法を探しはじめるなかで、公式がスーッと頭に入るようになりました。そして、問題が解ける手応えを感じ、意欲も高まってきたようです。

［スタッフ：みつえさん］

“世界を体感したり 昔に戻ったり”・・・ 私の居場所 2021年 春から夏

かんちゃんホットルームは、昨春から「三密」を避けて安土コミュニティセンターの大ホールを会場に、午前と午後の2回に分けたりして開催しています。食事はテイクアウト、お家で食べてもらっています。また開催を一時延期したことも。内容・運営の工夫も大きな課題です。でも、参加者の皆さんの協力によって、「安心して楽しく過ごせる居場所」として活動を続けています♪

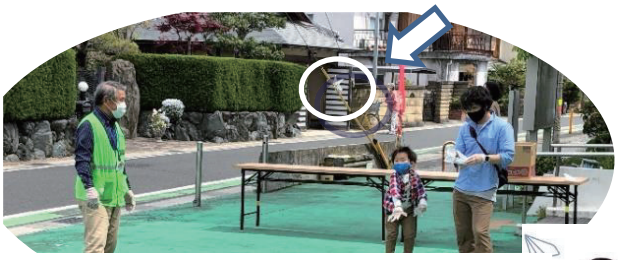
かんちゃんあそび村

４月（参加者 36 人）

＊けん玉　＊魚釣りっこゲーム
＊ビー玉ゲーム　＊パズル早ならべ
＊手作りおもちゃ　＊さら回し
＊つまめピンポン玉　＊輪投げ
＊紙ひこうき　＊ターゲットゴルフ
＊ブラジルのこま　＊日本のこま

チャレンジカードに記録を書いたり
シールを貼ったり・・・ ♪

「いろんなあそびに
ちょうせんしました」



「かみひこうき、たのしかったです♪」

「かんたんと思っていたら、うまくいかなくて、あせってしまいました。」

「初めてできたものがあって、
自分って こんなにできるんだとびっくりした！」

「ピンポンの玉を、おはしで
つかむのがむずかしかった！」

ビー玉ゲームのコーナーも担当
しました（中学生ボランティア）

みんなの声

中学生ボランティア

◇初めてボランティアをして、少し不安だったけど、すごく楽しかったです。教えるのは、やっぱりむずかしいなぁと思いました。

おとなの皆さん

◇輪投げや皿まわしが出来ました。ビー玉ゲームも楽しかったです。あっという間に時間が来てしまいました。久しぶりにすると難しいものですね。

◇ブラジルのころの、なつかしいゲームをおもいだして、とてもたのしかったです。わたしが、しょうがっこうのときにもどったきぶんでした。またいえで子どもたちとやりたいなとおもいました。

◇コロナ禍で、このようなイベントはとても少ないので、開催してもらって本当にありがたいです。中学生のボランティアの方にやさしく接してもらいました。ありがとうございました。

エチオピアのお話とワークショップ

６月（参加者 45 人）

♡エチオピアのお話とクイズ
♡エチオピアのダンス（動画と体験）♡アフリカ楽器のお話
♡カリンバやアサラトを作ろう・作った楽器で遊ぼう♪

エチオピアで小学校の先生をされていた桂武邦さん（JICA 関西：国際協力推進員）と楽しい時間をすごしました♪

エチオピアのダンスを初めて体験♪

みんなの声

- がっきづくりがたのしかったよ。
- アサラトでカサカサなるのがたのしかった。
- エチオピアのことをよくしれてよかった。もっといっぱいしりたいです。
- 楽器を作ったり、ならしたりするのが、楽しかった。
- エチオピアのダンスがおもしろかった。

おとなの皆さん

◇初めて参加しました。身近にあるもので、すてきな楽器が作れるとは思いませんでした。家で、親子で鳴らしてみようと思います。
◇息子は、（エチオピアは）お昼休みが１時間半もあるのがとてもうらやましいようでした。
◇家ではこんな感じで遊ぶことがないので、いい体験ができてよかったです。

木の板とヘアピンでカリンバを作りました♪
アサラト（右）にシールを貼ったりしました。

手づくりマンカラであそぼう

７月（参加者５５人）

７月は、多くの外国籍・外国にルーツをもつ方々が参加！（参加者の約１／３）「マンカラカラハ」が、かんちゃんホットルームを通して、新しい出会いとつながりの機会を演出してくれました♪

インドネシアでは・・・「チョンクラック」

プラスチックや木のボードゲーム。ピースには、アサリの貝殻を使うことがあります。1回するのに長ければ1時間くらいかかるけど、おもしろいから子どもたちは熱中します。子どもの頃、近くの友だちとよく遊びました。今の子どもは、チョンクラックで遊ぶ子どもは少ないですね。

ヤナさん・アフレザさん（インドネシア）

インタビューコーナー

ベトナムでは・・・「オーアンクアン」

昔から子どもたちが、屋外で楽しんできた遊びです。地面や道に描いてもいいし、紙に描いてもいい。インターネットやゲームのない時代だったので、子ども同士が出会ってよく遊んでいました。なつかしい楽しい想い出がたくさんあります。今の子どもたちは、オーアンクアンを知っているのは半分くらいかな。

フンさん（ベトナム）

「日本語交流教室たんぽぽ安土」で学ばれているフンさん、ヤナさん、アフレザさん、インタビューに協力していただき、ありがとうございました！

相談ルームのご案内

子育てや学校生活・卒業後の進路等で
困ったこと、気になることがあれば
声をかけてください！

相談スタッフ
かんちゃん（かんちゃんの小さな家代表
・スクールソーシャルワーカー）
まりこさん（親子をつなぐ学びのスペース
・リレイト代表：京都市）

11月21日（日） 13：00～17：30
12月22日（水） 13：00～17：30
◇定例日以外は、個別に相談に応じます。
◇保護者・支援の方の相談も可（要予約）
◇事前のお問い合わせ先 （かんちゃんの小さな家携帯090－3708－3315）

学びのご案内

スクールソーシャルワーク研究会しが主催

子ども支援学習会

第43回学習会 11月21日(日)
第44回学習会 12月22日(水)
（いずれも会場・時間は同じです）

◇会場 かんちゃんの小さな家
◇時間 10：00～12：00
◇事前の申し込みが必要です

「かんちゃんの小さな家 友の会」

入会 よろしくお願いします

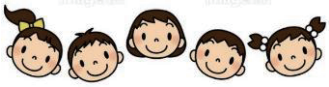
個人会員1口2,500円・団体会員1口10,000円

友の会・活動支援カンパの振込口座
振込先銀行 滋賀銀行 安土支店
口座種別 普通 口座番号 ４０３４８９
口座名称 かんちゃんの小さな家
代表 佐子 完十郎

※次号「第18号」は、2月の発行予定です！

「かんちゃんの小さな家 ホームページ」
https://kancyan-house.com/

交流会のご案内



第55回かんちゃんホットルーム

10月23日（土）
10：30～12：15
会場 安土コミュニティセンター
参加費：子ども100円・おとな300円
◇クイズや動画でイギリスを知ろう♪
◇イギリスのすごろくゲーム・ルド（ルード）であそぼう（ゴールするのがとにかく大変！）
◇お話は、トレース・フィリップさん（野洲市国際協会）です。

第56回かんちゃんホットルーム

11月20日（土）
10：30～12：15
会場 安土コミュニティセンター
◇「かんちゃんあそび村」（その6）

せせらぎ（編集後記）

◇「かんちゃんホットルーム」が、ドラえもんの「どこでもドア」のようにおもしろい！遊んでいるうちに昔に戻れたり、自分のもっているパワーに気づけたり、日本をとび出し世界のあちこちを旅できたり･･･。しかも、新しい＜出会い＞と＜つながり＞が生まれる♪という魅力たっぷりの「ドア」。◇それは、「ホットルーム」という「私たちの居場所」だからできること！「私たちの居場所」には、コロナ禍中はもとよりその後も、地域社会が“ぬくもり”を育んでいくヒントや、未来を生き抜くエネルギーを秘めている･･･とワクワクしたものを感じます。◇「かんちゃんの小さな家」にも、いろいろな「ドア（入口）」があります。2～3面で「活動の概要図」（学習・交流・相談・研修など）と「スタッフからの発信」を掲載しました。「ドア」の内側は･･･相互につながっていたり、スマートではないけれど手づくりのオーダーメイドの活動だったり･･･。「指導者」ではなく、子どもたちと一緒に走る「支援者・伴走者」であり続けたいです。（か）

ホットフィールド 子ども・若者支援 ヒューマンネット
かんちゃんの小さな家
〒521-1351 滋賀県近江八幡市安土町常楽寺956-2
携帯 090-3708-3315（代表 佐子） FAX 0748-46-3283
e-mail srmq61299@nike.eonet.ne.jp